

希望の子

小林市立南小学校 校長通信

令和3年11月19日 第21号 (文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3520 E-mail:1403eb@miyazaki-c.ed.jp

二年近く続いているコロ

ナ禍も、ようやく「沈静化」という表現が見合う状況となり、秋の学校行事にも子どもたちの笑顔が戻ってきました。中でも10月24日(日)の南小まつりでは、各会場で子どもたちがうれしそうに地域の方々と交流する姿を見ながら、お忙しい中御協力いただいた皆さんに感謝の気持ちで一杯になりました。また、5・6年生が参加したラジオの公開録音も貴重な体験となり、小林市や南小のPRにも一役買いました。

さらに、10月30日(土)には、6年生の思い出づくりした。PTAやまちづくり協議会の皆様のおかげです。イデアを練るとしますか?

少し前の話ですが、東京の町田市で小学校6年生の女の子が自ら命を絶つという悲しい事件がきました。学校で配付されたタブレット端末を使用したSNS上の書き込みが原因の一つとされたことで、マスコミが大きく取り上げました。

まず、マスコミの標的となつたのはタブレット配付。新型コロナウイルス感染拡大の中、自宅に留まる子ども達への教育の保障のために前倒しされた施策でしたが、準備(検証)が不足していたことは確かです。

次の標的が学校。この小学校はICT推進のモデル校で、いち早くタブレットの扱いに慣れさせようと取扱の制限を最小限に留めた校長の方針が非難的になりました。それまで

が問題の本質ではありません。受け止めなければいけないのは、だれがやつたか分からぬ卑劣な方法で相手を落とし込めるような心をもつた子ども(集団)が育つてしまつたという恐怖と見逃した大人の責任です。

各方面で「制限など掛けたらタブレットの機能が生かされない」と主張していた大学の教員も黙ることになりました。

大人が子どもの頃に経験していなかった環境(ICT)の中で、子どもの心に何が起きているのかを議論すべきでしょう。

物事の本質はどう? ?

(いじめに関する見解は、今は置いておきます)

本当にどうか分からぬよ

うな情報が次々と流れ、

我が子を失った親御さんと

人々の恐怖や怒りをあおつて

つても、必要のない分析です。

民衆を分断し、時には、人の命まで奪う……。アメリカの大統領選挙では実際にそのよう

なことが起こりました。

「メディア」ということば

は既に古くさくなり、四大メ

ディア(新聞、雑誌、テレビ、

ラジオ)が保つていた「真実

を伝える」という絶対的なモ

ラルさえ危うく感じます。

今は流れている情報が事実

かどうかも分からぬ、やり

とりしている相手の年齢や性

別さえ疑わしい時代です。そ

して、子どもも、そのような

環境にさらされています。

誤った情報は、誤った判断

と行動を引き起こします。

次々に入賞 前号裏面でも紹介しましたが、今、本年度の作品コンクールの結果が次々に届き、たくさんの子どもたちがすばらしい成績を残しています。子どもたちの豊かな感受性や表現力が結果として認められていることを大変うれしく思います。

第31回黒木清次文学碑祭入賞作品

須木村出身で作家、作詞家として作品を残し、宮崎日日新聞社社長、FM宮崎社長も務めた 黒木清次氏 の功績をたたえ、毎年文学碑祭が行われています。その文学碑祭で募集される詩のコンクールで、南小学校の2人が「小林市長賞」と「小林市教育長賞」を受賞しました。黒木清次氏は、たくさんの学校の校歌の作詞もされ、本校の校歌もそのひとつです。

4つしかない賞の中で、2つも受賞できたのは快挙です。また、冊子に掲載される優秀作品(全20点)にも1点選出されています。紙面の関係で以下に入賞の2点を紹介します。

3点とも素直で子どもらしく、しかも、力強さを備えた作品です。

たちあおいが
空にどどく
夏がはじまる

高くまつすぐ
色あざやかに
たちあおい

天にどどく
高くまつすぐ
色あざやかに
たちあおい

たちあおいが
さきだすと梅雨の始まる合図

たちあおい

五年 松本万央

小林市長賞



たちあおいが
空にどどく
夏がはじまる

太陽にのぼる
高くまつすぐ
色あざやかに
たちあおい

わたしのしょう来の夢が
かなえられるように
するために毎日、毎日いろんなことを
聞いている

わたしのお母さんが看護師だから
いろんなことを知っている

注射の仕方や
けがをしたときの手当の仕方
こまつている人への対応の仕方など
たくさん教えてくれる

六年 久保田姫彩

小林市教育長賞



優秀作品

六年 園田真彩 「生きるとは」

